

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 志井 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

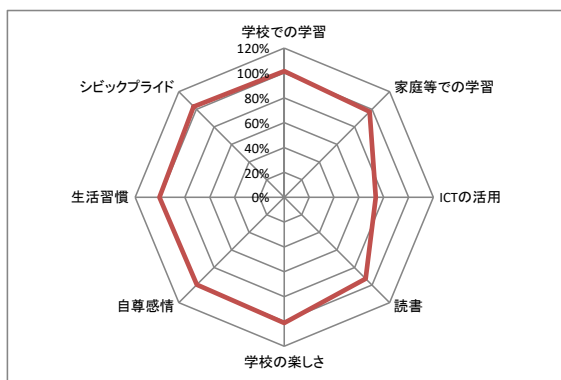
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均正答率をやや上回っていた。「話すこと・聞くこと」の正答率がやや高かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心をとらえる問題	
	努力が必要な問題	原因と結果など情報と情報の関係について理解する問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均正答率をやや上回っていた。「数と計算」領域に関する問題の正答率がやや高かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	一の位が0の二つの2位数についての乗法の計算の問題	
	努力が必要な問題	百分率で表された割合についての問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
<ul style="list-style-type: none"> 「学習した内容を次の学習につなげる」「学んだことをほかの学習で生かしている」「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する」など主体的な学びに関する問いに肯定的な回答をしている児童が多い。 授業中、自分の考えを「まとめる」「交流する」活動について、できていないと考えている児童が見られる。 ICTの活用に関する質問で肯定的な回答をした割合が低かった。全校で取り組んでいるタブレットタイムなどの取組を一層進めていきたい。 計画を立てて家庭学習に取り組んでいる児童の割合が高い一方、家庭学習や家庭での読書の時間が短い児童が一定数見られる。 	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・ICTも活用して、1時間の授業時間において自分の考えをまとめ、交流する時間を設定していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・学校だよりなどの機会をとらえて、家庭学習や読書習慣についての啓発を行うようにしていく。